OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	岩根久先生　略歴・研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	Gallia. 2020, 59, p. 17-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77089
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

岩根久先生　略歴

1954 年 6 月 22 日	豊中市蛍池に生まれる
1961 年 4 月	豊中市立蛍池小学校入学
1967 年 3 月	同卒業
1967 年 4 月	豊中市立第五中学校入学
1970 年 3 月	同卒業
1970 年 4 月	大阪府立北野高等学校入学
1973 年 3 月	同卒業
1973 年 4 月	大阪大学理学部高分子学科入学
1977 年 3 月	同卒業
1977 年 4 月	大阪大学文学部文学科研究生（1979 年 3 月まで）
1979 年 4 月	大阪大学大学院文学研究科博士前期課程（仏文学専攻）入学
1981 年 3 月	同修了
1981 年 4 月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（仏文学専攻）入学
1983 年 10 月	フランス政府給費留学生としてパリ第 7 大学に留学（1984 年 9 月まで）
1985 年 3 月	大阪大学大学院文学研究科博士後期課程（仏文学専攻）単位修得退学
1985 年 4 月	大阪大学言語文化部フランス語教育講座助手
1987 年 4 月	同講師
1988 年 12 月	同助教授
2002 年 4 月	同教授
2005 年 4 月	大阪大学大学院言語文化研究科言語情報科学講座教授に配置換
2020 年 3 月	定年により退職

岩根久先生　研究業績等一覧

著書（共著）

1．『ことばは生きている』（高岡幸一・宮川精一編，津田葵氏他 13 名との共著），人文書院 , 1991 年 9 月.
2．『英語英文学研究とコンピュータ』（齊藤俊雄編，齊藤俊雄氏，渡辺秀樹氏他 17 名の共著）英潮社 , 1992 年 3 月.
3．『エクリチュールの冒険―新編・フランス文学史―』（柏木隆雄他編，柏木隆雄氏他 20 氏との共著），大阪大学出版会 , 2003 年 12 月.
4．『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [実践編]』（森朋子・溝上慎一編 , 森朋子氏他 12 氏との共著），ナカニシヤ出版 , 2017 年 5 月.

編集

1．『フランス文学小事典』（柏木隆雄氏他 5 氏との共編），朝日出版社，2007 年 3 月.

論文（単著）

1．「論説詩の崩壊―ロンサールの転機―」, *Gallia*, n°11-12, pp.29-38, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 1983 年 3 月.
2．«Digrammes constituants du lexique du français contemporain»,『言語文化研究』XII, pp. 289-292, 大阪大学言語文化部 , 1986 年 2 月.
3．Digrammes de faible fréquence dans le lexique du français contemporain,『言語文化研究』13 号 , pp. 85-100, 大阪大学言語文化部 , 1987 年 2 月.
4．Pour l'automatisation de l'analyse syntaxique des textes de Ronsard,『ロンサール研究』1 号 , pp. 125-132, ロンサール研究会 , 1988 年 5 月.
5．ロンサールの語彙研究の技術的側面 ,『言語文化研究』15 号 , pp. 59-71, 大阪大学言語文化部 , 1989 年 3 月.
6．Tableau des rimes des *Amours*（1552）de Ronsard,『ロンサール研究』3 号 , pp. 95-134, ロンサール研究会 , 1990 年 5 月.
7．『ロンサール作品集（1609）』とサント＝ブーヴ , *Gallia*, n° 31, pp. 55-63, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 1992 年 3 月.
8．サント＝ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』の周辺 ,『ロンサール研究』6 号 , pp. 33-45, ロンサール研究会 , 1993 年 4 月.
9．シャルル・デュパン覚書 ,『大阪大学言語文化学』3 号 , pp. 95-104, 大阪大学言語文化学会 , 1994 年 3 月.
10．ロンサールの『論説詩集』と出版 ,『ロンサール研究』11 号 , pp. 1-14, ロンサール研究会 , 1998 年 6 月.
11．E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュック著作目録註解 ,『言語文化研究』26 号 , pp. 219-232, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2000 年 2

月.
12. 詩と死と癒し―ピエール・ド・ロンサールの場合―,『人文研究』31 号 , pp. 74-91, 大阪医科大学 , 2000 年 3 月.
13. L'informatique, un outil pour les études littélaires ?, *Equinoxe*, n° 17-18, pp. 61-70, Rinsen Book, Kyoto, 2000 年春 .
14. ロンサールと『戯歌（ざれうた）集』―その匿名の問題について―, *Gallia* n° 40, pp. 27-33, 大阪大学フランス語フランス文学会 , 2001 年 3 月.
15. 情報と文化の伝承 ,『情報と言語文化』, pp. 11-19. 言語文化共同研究プロジェクト 2000, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2001 年 3 月.
16. CALL 授業における電子教材 "TeLL me More" の活用法 ,『異言語・異文化教育におけるマルチメディア教育の可能性―フランス語教育の現場から―』, pp. 15-24, 言語文化共同研究プロジェクト 2001, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2002 年 3 月.
17. フランス詩脚韻資料作成のテクニック ,『電子化言語資料の方法論』, pp. 1-11, 言語文化共同研究プロジェクト 2001, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2002 年 3 月.
18. 階層的クラスター分析の有効性―英・仏・独・伊・西語の文字連鎖出現率の分析―,『電子化言語資料の方法論 II』, pp. 1-14, 言語文化共同研究プロジェクト 2002, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2003 年 4 月.
19. シャルル 9 世治世下の改暦―ルシヨンの王令を巡って―,『言語文化研究』29 号 , pp. 151-158, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2003 年 2 月.
20. 統計処理言語 R を用いた対応分析のテクニック―英・仏・独・伊・西語の文字連鎖出現率の分析―,『電子化言語資料分析研究』, pp. 3-19, 言語文化共同研究プロジェクト 2003, 大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科 , 2004 年 4 月.
21. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニック―フランス詩音韻構造データ作成のために―,『電子化言語資料分析研究　2004-2005』, pp. 13-21, 言語文化共同研究プロジェクト 2004, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2005 年 5 月.
22. E.-L.-N. ヴィオレ＝ル＝デュックの『計木詩法（*La Métroxylotechnie*）』について ,『シュンポシオン―高岡幸一教授退職記念論集―』（金崎春幸他編）, pp. 245-254, 朝日出版社 , 2006 年 3 月.
23. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニック 2―日本語 Windows 環境でのフランス語テキスト処理―,『電子化言語資料分析研究　2005-2006』, pp. 13-24, 言語文化共同研究プロジェクト 2005, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2006 年 5 月.
24. 統計処理言語 R を用いた資料分析法―語彙対の出現頻度比を用いた作品特徴の導出―,『電子化言語資料分析研究　2006-2007』, pp. 41-49, 言語文化共同研究

プロジェクト 2006, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2007 年 5 月.

25. ロンサールのテキストにおける «guerre» と «paix»―計量的観点から見た 1558 ～ 1559 出版の小冊子群―,『ロンサール研究』20 号 , pp. 223-236, 日本ロンサール学会 , 2007 年 7 月.
26. サント＝ブーヴとヴィオレ＝ル＝デュック ,『テクストの生理学』（柏木隆雄教授退職記念論文集刊行会編）, pp. 447-459, 朝日出版社 , 2008 年 2 月.
27. 統計処理言語 R を用いたテキストデータ加工のテクニック 3―16 世紀フランスのソネのデータを例として―,『電子化言語資料分析研究　2007-2008』, pp. 45-54, 言語文化共同研究プロジェクト 2007, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2008 年 5 月.
28. フランス詩のマイニング―道具の R、R の道具―,『多変量アプローチによるテキストの計量研究』, pp. 23-52, 統計数理研究所共同研究リポート 231, 統計数理研究所 , 2009 年 3 月.
29. R を用いたテキストマイニング 1―文字出現頻度によるソネのマイニング―,『電子化言語資料分析研究　2008-2009』, pp. 25-34, 言語文化共同研究プロジェクト 2008, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2009 年 5 月.
30. R を用いたテキストマイニング 2―ソネの文字構成について―,『電子化言語資料分析研究　2009-2010』, pp. 29-40, 言語文化共同研究プロジェクト 2009, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2010 年 5 月.
31. 叙事詩の音声的特色について―R を用いた 16 世紀フランス詩のマイニング―,『統計学的アプローチによるテクスト分析Ⅱ』, pp. 37-42, 統計数理研究所共同研究リポート 264, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2011 年 3 月.
32. R を用いたテキストマイニング 3―叙事詩と抒情詩の計量的差異―,『電子化言語資料分析研究　2010-2011』, pp. 23-30, 言語文化共同研究プロジェクト 2010, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2011 年 5 月.
33. ヴィオレ＝ル＝デュックと文芸誌『リセ・フランセ』―書誌的側面から― ,『ステラ』30 号 , pp. 103-116, 九州大学フランス語フランス文学研究会 , 2011 年 12 月.
34. 押韻ラベル付与の自動化に向けて―ソネの押韻構成分析のための R スクリプト―,『マイニング技術を応用したテクスト分析研究』, pp. 17-22, 統計数理研究所共同研究リポート 278, 統計数理研究所 , 2012 年 3 月.
35. R を用いたテキストマイニング 4―ソネ脚韻の音素分析―,『電子化言語資料分析研究　2011-2012』, pp. 29-39, 言語文化共同研究プロジェクト 2011, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2012 年 5 月.
36. 脚韻判定法の評価―フランスのソネの押韻構成を用いて―,『統計的マイニング技術を応用したテクスト研究』, pp. 49-60, 統計数理研究所共同研究リポート 298, 統計数理研究所 , 2013 年 3 月.
37. イタリアソネットの自動押韻ラベル付与―ペトラルカ『カンツォニエーレ』のソネット―,『人文学データのマイニング』, pp. 25-33, 統計数理研究所共同研

究リポート 322, 統計数理研究所 , 2014 年 3 月.

38. 16 世紀フランス詩の音の分析に向けて―N-gram とデンドログラムの利用―, 『人文学データのマイニング II』, pp. 11-20, 統計数理研究所共同研究リポート 345, 統計数理研究所 , 2015 年 3 月.
39. R を用いたテキストマイニング 5―N-gram による 16 世紀フランス詩の分析―, 『電子化言語資料分析研究　2014-2015』, pp. 15-28, 言語文化共同研究プロジェクト 2014, 大阪大学大学院言語文化研究科 , 2015 年 5 月.
40. アルスナル図書館所蔵のデュ・バルタス『聖週間』（1581）について , 『ステラ』34 号 , pp. 83-87, 九州大学フランス語フランス文学研究会 , 2015 年 12 月.
41. コーパス分析ソフト CasualConc の活用（1）―ロンサールの論説詩とプロテスタント詩人による反ロンサール詩を例として―, 『ロンサール研究 30 号』, pp. 139-145, 日本ロンサール学会 , 2017 年 8 月.
42. コーパス分析ソフト CasualConc の活用（2）―例として『恋愛詩集』（1552）を中心に―, 『ロンサール研究 31 号』, pp. 99-104, 日本ロンサール学会 , 2018 年 8 月.
43. フランス語中級講読枠の授業におけるロイロノート・スクールを用いたグループプレゼンの実践 , 『FLExICT Expo 2018：外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tips の融合 予稿集』, pp. 140-144, FLExICT Expo 2018, 2019 年 3 月.

論文（共著）

1．岩井千春・岩根久 , 「ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較―店側の落ち度の程度による対応の変化―」, *The JASEC Bulletin,* n°28（1）, pp. 33-49, 日本英語コミュニケーション学会 , 2019 年 11 月.

口頭発表

1．フランス語圏の人達に対するコンピュータを用いた日本語教育 , 京都大学工学部対話研究会（京都大学工学部）, 1985 年 1 月.
2．フランス語の語彙にみられる文字相互関係―パリ第 7 大学言語文書自動処理研究所語彙集 LMS を用いた調査結果報告―, 言語文化研究会（大阪大学言語文化部）, 1985 年 7 月.
3．ロンサールの論説詩をめぐるパンフレット論争の諸問題 , 大阪大学フランス語フランス文学会（大阪大学文学部）, 1986 年 3 月.
4．Fabrication de matériel video（北村卓氏と共同発表）, フランス語教育研究会（関西セミナーハウス）, 1987 年 3 月.
5．ロンサールの語彙 , ロンサール研究会（静岡県一碧湖セミナーハウス）, 1987 年 9 月.
6．Fabrication de matériel video 2（北村卓氏と共同発表）, フランス語教育研究会（関西セミナーハウス）, 1988 年 3 月.

7．Colloque de l'Institut Collégial Européen 1988 について , ロンサール研究会（神奈川県あしがら荘), 1988 年 9 月.
8．Le travail en groupes dans une classe de 2ème année, フランス語教育研究会（兵庫県舞子ビラ), 1989 年 3 月.
9．Hanafuda ou un travail en 1ère année, フランス語教育研究会（兵庫県舞子ビラ), 1990 年 3 月.
10. NACSIS et *MIinitel*: La télématique au service des enseignants de français（J.-P. Honoré 氏と共同発表), フランス語教育研究会（兵庫県舞子ビラ), 1991 年 3 月.
11. パーソナルコンピュータによる学術情報センターの利用 , フランス語教育研究会（兵庫県舞子ビラ), 1992 年 3 月.
12. サント＝ブーヴ『16 世紀フランス詩及び演劇の歴史的批評的展望』の周辺 , ロンサール研究会（神奈川県あしがら荘), 1992 年 9 月.
13. テキスト処理言語 AWK を用いたフランス語テキスト処理 , 日本フランス語フランス文学会秋季大会（京都大学), 1993 年 10 月.
14. L'informatique, un outil pour les études littéraires?, Le Colloque franco-japonais « Ecriture / figure »（L'institut franco-japonais du kansai, Kyoto), 1998 年 11 月.
15. 書誌学者ヴィオレ＝ル＝デュックと 16 世紀 , ラブレー・モンテーニュ研究フォーラム（立教大学), 2005 年 5 月.
16. 講読の授業を CALL 教室で活性化させるには , 獨協大学フランス語教授法研究会（アテネ・フランセ), 2006 年 11 月.
17. 私のゲリラ CALL―教育に情報システムをいかに活用するか―, 広島大学プロジェクト公開セミナー（広島大学), 2006 年 12 月.
18. CALL における授業デザインと評価（森朋子氏と共同発表), 関西フランス語教育研究会（大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ), 2007 年 3 月.
19. フランス詩の音韻構造のマイニング―データ解析環境 R を用いて―, 統計数理科学研究所共同研究グループ（統計数理研究所), 2007 年 9 月.
20. 音要素に着目したフランス詩のデータマイニング , 統計数理科学研究所共同研究グループ（統計数理研究所), 2008 年 3 月.
21. いま初修外国語をどう教えるか？ , 平成 20 年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム（大阪大学), 2008 年 10 月.
22. フランス 16 世紀のソネの分類―R を用いたマイニング―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」（統計数理研究所), 2009 年 3 月.
23. フランス語初級文法の授業の今とこれから , 言語文化研究科・外国語学部・サイバーメディアセンター・留学生センター・世界言語研究センター共催シンポジウム「これからの外国語教育　2」（大阪大学), 2009 年 10 月.
24. 測れない時間と測れる時間―16 世紀の 2 人の詩人ロンサールとデュ・バルタスの場合―, 大阪大学フランス語フランス文学会・『ガリア』50 号記念シンポ

ジウム「時の経過」(大阪大学・待兼山会館), 2011 年 3 月.

25. 叙事詩の音声的特色について―R を用いた 16 世紀フランス詩のマイニング―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2011 年 3 月.
26. hclust をグルーピングツールとして使う：ソネ（フランス 14 行詩）の脚韻分類 , R ユーザー（あるいは, これから R を使ってみようという人）のための（人文｜言語｜社会｜文化｜図書館）情報学研究集会（大阪大学・言語文化研究科), 2012 年 4 月.
27. 脚韻判定法の評価―フランスのソネの押韻構成に関して―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2013 年 3 月.
28. ソネの脚韻分析に向けて―フランス 16 世紀のソネの押韻配置―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(西南学院大学), 2013 年 9 月.
29. CALL 教室におけるフランス語動詞活用 Web 教材「活用虎の穴」の効果的利用法 , 第 12 回 e-Learning 教育学会（関東学院大学（金沢文庫キャンパス)), 2014 年 3 月.
30. ソネの脚韻分析に向けて―ペトラルカ『カンツォニエーレ』のソネットを中心に―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2014 年 3 月.
31. 「第 2 外国語における反転学習の導入実践報告」(安部有紀子氏、本田周二氏と共同ポスター発表), 第 3 回反転学習公開研究会（関西大学), 2015 年 2 月.
32. 16 世紀フランス詩の音の分析に向けて―N-gram とデンドログラムの利用―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2015 年 3 月.
33. 論説詩合戦におけるロンサールとプロテスタント詩人―計量的特色から何が見えるか―, 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」(統計数理研究所), 2016 年 3 月.
34. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に , 日本ロンサール学会 2016 年度大会 (同志社びわこリトリートセンター), 2016 年 8 月.
35. 反ロンサールパンフレットの計量的特徴を探る , 統計数理研究所言語系共同研究グループ・2016 年度夏季合同研究発表会（神戸大学), 2016 年 8 月.
36. 反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討 , 統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計 2017」(統計数理研究所), 2017 年 3 月.
37. テキスト理解のために計量的手法を―Mac 用フリーソフト CasualConc を用いたラブレーとモンテーニュの語彙の比較を例に―, ラブレー・モンテーニュ研究フォーラム（東京大学), 2017 年 6 月.

38. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に（2）―頻度の可視化について―, 日本ロンサール学会 2017 年度大会（同志社びわこリトリートセンター）, 2017 年 8 月.
39. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に（3）―共起について―, 日本ロンサール学会 2018 年度大会（同志社びわこリトリートセンター）, 2018 年 8 月.
40. フランス語中級講読枠の授業におけるロイロノート・スクールを用いたグループプレゼンの実践 , FLExICT Expo 2018：外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tips の融合（大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー）, 2019 年 3 月.
41. ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較―店側の落ち度の程度による対応の変化―（岩井千春氏と共同発表）, 外国語教育メディア学会（LET）関西支部 2019 年度春季研究大会（関西国際大学尼崎キャンパス）, 2019 年 5 月.
42. 苦情対応の日英比較―ロールプレイとインタビューの分析―（岩井千春氏と共同発表）, International Conference on Foreign Language Education and Technology, August 6-9, 2019（早稲田大学早稲田キャンパス）, 2019 年 8 月.
43. 語彙計量的手法を日常のテキスト分析に（4）―語彙使用の特色を探る―, 日本ロンサール学会 2019 年度大会（同志社びわこリトリートセンター）, 2019 年 8 月.

翻訳書

1．『フランス・ルネサンス文学集　2　笑いと涙と』（宮下志朗・伊藤進・平野隆文編 , 荻野アンナ氏他 4 氏との分担共訳）, 白水社 , 2016 年 3 月.

講演

1．理系？文系？どうする？ , 大阪府立北野高等学校・「大学セミナー」（大阪府立北野高等学校）, 2004 年 11 月.
2．ルネッサンスの音楽と詩：恋は歌うものなのか？―ロンサール『恋愛詩集』と音楽―, 日仏文化講座 CAF・「日仏文化講座」（神戸国際会館）, 2006 年 2 月.
3．私のゲリラ CALL ―教育に情報システムをいかに活用するか―,「広島大学プロジェクト公開セミナー：総科プロジェクト「言語と情報」」（広島大学総合科学部）, 2006 年 12 月.
4．いつから 1 月 1 日が 1 年の始まりなのか , 日仏文化協会・「フランス文化講座」（日仏文化協会関西センター）, 2009 年 3 月.
5．言葉を探るということ , 大阪府立北野高等学校・「知的世界への冒険」（大阪府立北野高等学校）, 2012 年 9 月.
6．炸裂する恋愛 , 大阪府立北野高等学校・「知的世界への冒険」（大阪府立北野高等学校）, 2013 年 9 月.
7．フランス語初級（文法）クラスで反転授業をやってみた―「反転授業」的な

方法は吉か凶か?―, 京都外国語大学・「京都外大 AP 研修会」（京都外国語大学), 2015 年 7 月.
8．ロイロノートセミナー , 神戸大学国際コミュニケーションセンター・「国語教育セミナー」（神戸大学鶴甲第 1 キャンパス), 2019 年 11 月.

教科書・問題集・参考書

1．クレチアン夫妻の祝祭日（ビルマン氏，伊藤了子氏と共著), 早美出版社 , 1992 年 3 月.
2．フランス・ユーモア選集（江口修氏，高橋純氏，高橋百代氏，吉井亮雄氏と共編), 青山社 , 1990 年 3 月.
3．きりとるテスト―10 分間でフランス語―, 第三書房 , 1997 年 3 月.
4．新・フランス語文法（春木仁孝氏他 7 氏と共著), 朝日出版社 , 2003 年 4 月.
5．新きりとるテスト―10 分間でフランス語―, 第三書房 , 2011 年 4 月.
6．新・フランス語文法（新訂版）（春木仁孝氏他 10 氏と共著), 朝日出版社 , 2013 年 1 月.
7．新きりとるテスト―10 分間でフランス語―（2 版), 第三書房 , 2014 年 3 月.
8．新きりとるテスト―10 分間でフランス語―（3 版), 第三書房 , 2015 年 4 月.
9．新・フランス語文法（三訂版）（春木仁孝氏他 10 氏と共著), 朝日出版社 , 2017 年 1 月.
10. 新きりとるテスト―10 分間でフランス語―（4 版), 第三書房 , 2018 年 4 月.
11. フランス語動詞活用ドリル虎の穴 , 白水社 , 2018 年 5 月.

寄稿記事

1．外国語の文法学習に CALL 授業は効果があるのか？－直撃、Q & A－ ,『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』5, pp. 45-46, 大阪大学サイバーメディアセンター , 2004 年 9 月.
2．「道しるべ」,『ラテン詩人　水野有庸の軌跡』, pp. 74-76,『ラテン詩人　水野有庸の軌跡』編集委員会 , 2009 年 3 月.
3．「活用虎の穴」開設 10 年に事寄せて ,『e-Learning 教育研究』5, pp. 40-43, e-Learning 教育学会 , 2010 年 12 月.
4．荒地に花 ,『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』13, pp. 61-52, 大阪大学サイバーメディアセンター , 2012 年 9 月.
5．授業における音声再生装置としての iPad mini,『e-Learning 教育研究』8, pp. 54-57, e-Learning 教育学会 , 2013 年 12 月.
6．フランス語初級文法学習のための環境 ,『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』19, pp. 15-18. 大阪大学サイバーメディアセンター , 2019 年 2 月.

科学研究費助成実績

1．官吏ヴィオレ＝ル＝デュックと文学 , 基盤研究 C（代表), 2006 年度～ 2008 年

度 .

2．意味の対応付けによる辞書資源群の多言語セマンティック Web 化，基盤研究 B（分担／研究代表者：林良彦），2013 年度～ 2016 年度 .

3．観光業の苦情対応における日英比較の研究―語用論を活かした ESP 教材の開発―，基盤研究 C（分担／研究代表者：岩井千春），2017 年度～ 2020 年度 .